

事業のタネシート

活動地域・団体名：エネシフ湖北

事業名称 1：断熱リフォーム事業

あらすじ

気候変動対策を実施するには既存住宅の省エネ化が重要である。また、住居の断熱改修を行うことで暮らしやすさを向上させることができる。こうした断熱改修を推進するために、地域で断熱改修リフォームの事業化を行い、地域内で断熱改修をできる体制を整える。

ストーリー

令和5年度に断熱ワークショップを行い、滋賀県内の若手大学生が改修工事に携わってくれた。この大学生は来年度から市内の建設・建築系の会社に就職することが決まっており、ワークショップを通じて学んだ断熱改修に関する技術を生かしながら、長浜市において断熱改修リフォーム事業を立ち上げていく予定。また、ワークショップの実施により、地元高校との連携や、地域の歴史的建造物での断熱改修の話が持ち上がる等、地域の様々なステークホルダーを巻き込んだ事業の立ち上げが現実になりつつある。今後、地域の若手人材が新しいビジネスとしての断熱改修を進め、地域の省エネ化を進めるとともに、暮らしの質を向上させることができれば、ゼロカーボンに向けた取組が地域を元気にして、暮らしを豊かにするという理解を広げていくことにも繋がる。

事業の骨子

現時点で想定される
課題・ボトルネック

①ありたい未来	断熱リフォーム事業を地域で実施することで、地域に雇用が生まれ、地域のエネルギー代金の流出が止まるとともに、学校での学びから、地域での魅力ある雇用に繋げ、地域を元気にする。	断熱リフォームを実施したいと思う家庭をどれだけ増やせるか。事業の収益率の向上等、具体的な事業モデルの構築、実施。
②課題	既存住宅が夏暑くて、冬寒い。住宅のエネルギー使用量の削減が地球全体のみならず、地域の家計や経済にとっても課題。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域外の事業者ではなく、地域内の事業者が断熱リフォーム事業を実施し、教育機関と連携することで、学校の学びと魅力ある雇用、省エネと経済活動の活性化等、地域課題の同時解決を行う。	
④地域資源	やる気のある地域の事業者、やる気のある高校、やる気のある歴史的建造物の管理者、木材資源（木製サッシの製造）	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	断熱改修リフォーム事業	
⑥担い手 (Who)	地域の工務店	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	断熱ワークショップを通じて建築に携わる事業者同士や高校、行政等が共通の体験をできた。断熱リフォーム事業をこのワークショップと紐づけて実施していくことで、多くの人に関わり合い、人の循環が形成される。また、省エネの実現により、エネルギー使用代金が減少し、地域内での経済循環にも寄与する。	行政（事業の後押しとなる施策）、森林組合（木製サッシの木材提供）、連携事業者（事業者間で得意分野を実施することで、役割分担し、地域で多様なサービスを展開できるようにする）
⑧事業で生じる成果	魅力ある地域雇用の創出、将来に繋がる学校教育の実現、暮らしやすい住宅、地域経済の活性化、省エネ、暮らしを豊かにするゼロカーボン事業のイメージの醸成。	

事業名称 2 : 長浜地域循環共生圏見える化・クリエイティブ事業		
あらすじ		
長浜で進むゼロカーボンや地域循環共生圏の実現に向けたさまざまな動きを可視化し、地域内外の人への理解を促進する事業。		
ストーリー		
令和5年度に地域の様々な関係者と話をする中で、ビジネスや地域を元気にする営利・非営利の取組の種が多く見つかった。来年度以降、それら一つずつ具体化していく予定であるが、これらを実施する際に、しっかりと発信をしていくことが理解者、仲間を増やし、投資を呼び込むために必要であると感じており、そうした問題意識から令和5年度事業としてSNSセミナーを行った。そのセミナーの中で出会ったメンバーを中心に地域の取組を可視化するようなクリエイティブ事業の立ち上げを目指す。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域で行われるローカルSDGsやエネルギー、教育に関する取組が可視化され、仲間や理解者が増え、投資が促される循環を作る。	映像ビジネスとしてのノウハウの蓄積。意欲のある新規事業者の育成。
②課題	地域で行われている取組を可視化する仕組みがない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	エネシフ湖北として実証的に取り組んできたnoteによる記事の執筆や映像の制作について、人材の定着や事業化を図ることでより持続可能で質の高い情報発信を行うことで、地域の取組の魅力をさらにうまく発信する。	
④地域資源	活発な市民、パブリックマインドの高い事業者	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	映像事業、webのライティング事業	
⑥担い手 (Who)	映像クリエイティブの事業者 (新規立ち上げ)	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	映像を通じた人のつながり、地域内で内製化することの資金循環	立ち上げ時のトレーニングの場としての、理解のある発注者 (事業者や行政)
⑧事業で生じる成果	地域の取組が可視化され、魅力が伝わり、さらに関わる人が増える。人口減少の抑止にも繋がる。	

事業名称 3 : 農村集落自立型エネルギー・交通シェア事業		
あらすじ		
地域で増加するEVバッテリー、太陽光パネル等をうまく連携、活用、共有することで、地域内でエネルギーを自給するオフグリッド集落の実現を目指す。そのために、まずEVと太陽光パネルの充放電システムを用いて、EVで通勤し、会社で電気をためて、家庭で電気を使用するという電気の地産地消モデルの構築を目指す。		
ストーリー		
令和5年度の視察やミーティングを通じて地域内外に多くの協力者が連携できる体制ができており、現在関係者の中に、断熱化の工事のできる技術者、木質バイオマス熱利用の専門家、太陽光パネルの設置施工者、EVと太陽光パネルの充放電システムの開発を行う企業がいる。そのメンバーが協力し、太陽光発電、木質バイオマス、断熱リフォームによる省エネ、EVの活用等を通じて、集落単位でオフグリッド可能な地域の実現を目指す。この構想の実現のために、まずは家庭と会社との電気の融通をEVにより実現する仕組みの実証的な取組を行い、地域の太陽光パネルでつくった電気をEVを活用しつつ、地域内で融通することで、地域の電気地産地消の仕組みの構築を目指す。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	集落のエネルギーのオフグリッド化、自立化	地域の交通会社、ガス会社等の関係者の理解が課題。すでにそうした人達ともコミュニケーションを取り始めているが、実際に一緒に事業を実施していく体制を作るにはさらなる関係性の構築が必要。
②課題	集落における交通の便の悪さ 地域でつくったエネルギーの地域内での循環	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	人口減少、インフラの維持コストの増加等により地域の交通や集落の暮らしの在り方は今後さらに厳しくなる。そこで、EVシフトや脱炭素社会への移行をチャンスに変えて、地域でエネルギーを自立できる魅力ある集落の構築を目指す。	
④地域資源	太陽光、専門人材（断熱化の工事のできる技術者、木質バイオマス熱利用の専門家、太陽光パネルの設置施工者、EVと太陽光パネルの充放電システムの開発を行う企業）	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	電気の充放電システム、太陽光発電PPA事業、断熱リフォーム事業、木質バイオマス事業。また、それらの組み合わせによる最適なライフスタイルの提案。	
⑥担い手 (Who)	それぞれのプレイヤー（断熱化の工事のできる技術者、木質バイオマス熱利用の専門家、太陽光パネルの設置施工者、EVと太陽光パネルの充放電システムの開発を行う企業）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域内でのエネルギーの循環、分野を越えた人材の循環	行政（事業の後押しになる施策の実施）
⑧事業で生じる成果	エネルギー代金の流出の防止、魅力ある地域雇用の創出、レジリエンスの強化、人口減少の抑止	